

災害科学国際研究所 新棟落成式を行いました(2014/11/10)

テーマ：実践的防災学の発信，防災・減災研究の拠点

会場：東北大学災害科学国際研究所新棟（宮城県仙台市青葉区 東北大学青葉山新キャンパス）

URL：<http://irides.tohoku.ac.jp/index.html>

この度、青葉山新キャンパスに災害科学国際研究所棟が9月1日に竣工し、最先端の研究拠点が整ったことを受け、11月10日（月）、新棟多目的ホールにて落成式を行いました。

式典は、政府・学術機関・企業関係者等約200名の方々に御臨席頂きました。冒頭、東日本大震災で犠牲になられた方々への黙とうを行い、その後、今村文彦所長が挨拶を行いました。今村所長は、関係各位へ謝辞を述べ、研究所の設立経緯・新棟の特色を説明した後、今後も災害復興を総合的に支援し、実践的防災学を深化させて活動をグローバルに展開する決意を表明しました。以下、式辞挨拶文の抜粋です。

「東北大学災害科学国際研究所は、東日本大震災という歴史的・複合的大災害を経験し、二度と同じような災害を繰り返さないために、今回の経験・教訓を踏まえて、災害研究のパラダイムシフトを目指した新たな研究組織である災害科学国際研究所を平成24年4月に発足しました。発足から約2年半が経過し、青葉山新キャンパスに一万平米の災害科学国際研究所棟が竣工し、最先端の科学技術研究をベースとした、グローバルに連携する研究拠点としての場を形成することができました。今後、私たちの災害科学の研究が、日本の復興はもちろん世界の災害軽減に貢献していくためには、地球規模で災害のメカニズムを解明し、将来に備える「グローバルな視点」が必要であります。さらに、その国や地域の独自性、多様性、価値観などをつぶさに研究する「インターナショナルな視点」も不可欠であり、これらの融合が必要であると考えております。今後も、災害復興・再生への総合的な支援をさせて頂きながら、防災・減災に関する新たな研究・教育を先導していく所存でおります。」

続く来賓祝辞の後、里見進総長、山脇良雄氏（文部科学省大臣官房審議官）、平祐太郎氏（内閣府参事官補佐）、梶原康之氏（宮城復興局長）、三浦秀一氏（宮城県副知事）、伊藤敬幹氏（仙台市副市長）、平川新教授（宮城学院女子大学学長（災害科学国際研究所前所長））、原信義理事（震災復興推進担当）、今村所長がテープカットを行いました。続いて、新棟設備の説明を行い、新棟内覧会を開催しました。内覧会では、「多次元可視化システム」「MRシステム」「光トポグラフィー・防音室」「避難所支援ゲーミング」の見学、「減災結プロジェクト（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）」「災害医学研究部門の活動」「研究紹介パネル」「サーバ室」「ライブラリ」の展示、「小型地震体験装置」の体験の機会を設け、各会場で担当者が出席者に説明を行いました。

当研究所は、今後も産官学民と連携する研究拠点として、研究・教育・社会活動の一層の発展、被災地との更なる復興協力、研究成果のよりよい社会発信に取り組み、日本および世界の災害軽減を目指してまいります。

（次頁へつづく）



正面入口



今村所長



テープカット



落成式会場の様子



内覧会（MRシステム）



内覧会（光トポグラフィー）



内覧会（減災結プロジェクト）



内覧会（小型地震体験装置）